港北ラウンジニュース

そよ風

2025年
4～6月号
No.143

横浜市港北国際交流ラウンジ　KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE

令和7年度スタートにあたり

（特非）港北国際交流の会　理事長　鬼頭　幸久

先ずは日ごろよりボランティアの方々の熱意ある献身的な活動に改めて感謝申し上げます。

現在観光のみならず在住外国人の方は年々顕著に増加しています。

1月末現在横浜市全体で約127,000人、港北区は約8,600人となり、市内5番目の多さです。また、当ラウンジの外国人来館者も増加し、特にクラスによってはスペースが足りないほど、世界約40の国々から来日され日本語教室に通っています。

そのような環境下にあって、「多文化共生」を推進する拠点として「港北国際交流ラウンジ」の役割は益々重要になってきます。外国人支援を実践していく上でも、多面的且つ有機的に各事業を組み合わせ、行政関連機関、地域コミュニティ、学校（小～大学）等との「連携・協働」をし、更には在住外国人の活動参画、やさしい日本語の普及も重要な要素となります。

特に大学生、高校生ボランティア団体「Youth国際なんでも教室」も外国につながる子どもたちへのサポートを主体的に活動し、好評を得ています。

さて、今年度より「NPO法人港北国際交流の会」は大きく会員制度を改訂します。会員の皆さまにおかれましては運用にあたりご理解いただきこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

社会の課題解決に貢献すべく、地域在住外国人が地域に溶け込み、日本人と共に暮らしやすい街づくりを目指し、双方からの信頼を得て、真にラウンジが多文化共生の場として価値創造し発展していかなければなりません。

引き続きボランティアの方々、そしてすべてのラウンジ利用関係者皆様方の変わらぬご支援、ご協力賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。

末筆になりますが、今年度も皆さま全員が健康で、楽しく、明るく活動できることを祈念し令和7年度始めの挨拶とさせていただきます。

着付けとお茶会体験

2月9日日曜日に「着付けとお茶会体験」のイベントが開催されました。

今回のイベントはまず「着付け」から始まりました。参加者の皆さんに服飾文化研究会の方々が着物を着せて下さいました。女性は振袖、男性は紋付きの羽織と袴です。どちらも結婚式などのお祝いのときに着る、一番格式の高い着物「晴れ着」です。

その後、お茶会が開かれました。お茶を飲む前にまず一人一人にお菓子が配られます。お茶会で出されるお菓子は季節を表したもので、今回は椿の花をイメージしたピンクと、葉の緑が彩られたふっくらとした白いお菓子で「寒椿」という名前です。

皆さんがお菓子を食べている間に裏千家武井社中の皆さんがお茶を点て、もう一人の方が横に立ちお茶を点てる過程を解説しました。脇には大きな赤い傘が広げられて会場の雰囲気を盛り上げていました。参加者の皆さんは背筋を伸ばして座り、お点前（お茶を点てるプロセス）をじっと見つめて説明に真剣に聞き入っていました。

私のボランティア活動（No.27）

日本語教室日曜クラス　　釘澤 文子　さん

「１０年間の活動を振り返って」

2024年10月27日に、10年間の活動に対して感謝状をいただき、もう10年経ったのだなと、感慨深いものがありました。

ボランティアを始めたのは、会社を辞めた後、地元で何かお役に立てることがないかと思っていた頃に、区報でボランティア募集の記事を読んだのがきっかけでした。また、勤めていた会社が毎年夏休みにアジアの大学生を日本に招待し、その間数日だけ社員の家庭でホームステイをするのですが、10年間受け入れたことも、きっかけのひとつと言えます。日本語は余りできなくても、日本に興味を持っている若者に日本を好きになって欲しい、日本語を知って欲しいと言う思いがあったからです。

ボランティアを始める前には養成講座を受講しましたが、実際に始めてみると、どうすれば理解して貰えるのか、私の説明でわかって貰えたかなど、悩みながらスタートしたことを覚えています。時間に余裕ができてからは日本語教師養成学校にも通い、色々な知識を詰め込みましたが、やはり実践あるのみ。私の説明でわかって貰えたかなと思うのは、今も最初の頃と同じですが、教科書の内容を教えるだけではなく、スマホの画像を見せ合って、それぞれの国のお国事情を教え合うこともあります。どこの国で暮らすにも、その国のことばが理解できれば、日常生活に困らず、より快適に生活することができると思います。学習者の皆さんがそうなれるよう、これからも少しでもお手伝いができればと思っています。

中国茶を深く知ろう

2025年2月11日（火曜日・祝日）13:30～15:00、横浜市港北国際交流ラウンジにて、翻訳家で中国語の講師もされているオウヤンさんをお招きし、12名のご参加者と一緒にイベント『中国茶を深く知ろう』を楽しみました。

はじめにオウヤンさんから中国茶で主要な「六大茶」とその用途に合わせた茶器をご説明いただき、実際に茶葉の香りを嗅ぎながらその名前を当てるなどのクイズが出されました。そして中国茶の歴史を学んだ後お茶の淹れ方を実践していただきました。最後に質疑応答も兼ねながら、みんなで中国のお茶菓子と中国茶を堪能しました。

今回出されたお茶は「紅茶」の他に、上記の中国を代表する「六大茶」とジャスミンやバラなど「花茶」を合わせた「八宝茶（バーバオ茶）」の二種類です。八宝茶は確かに「八つの宝」と書きますが、必ずしも八つ／八種類の材料を入れる必要はありません。また季節やお好み体調に合わせて自由に組み合わせ、中の様子を観賞しながら作る、見た目にもきれいなお茶です。

オウヤンさんの八宝茶レシピ：

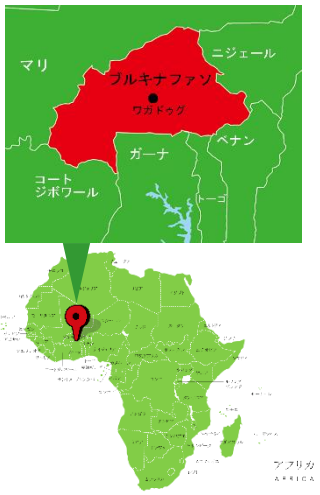
① ベースとなるお茶（今回はプーアル茶）
② 花茶（菊）
③ 干し果実（りゅうがん、クコの実）
④ 氷砂糖

感想は、初春にぴったりの透明な琥珀色で、ふんわりと甘みのあるお茶でした。茶器は、紅茶には蓋つきの蓋碗（ガイワン）と呼ばれるものを、八宝茶には中でひらく茶葉と茶花を観賞できるようガラスポットを使用し、人差し指と親指で持てるくらいの小さな茶器に注がれました。ここでポイントは茶器を前もってお湯で温めておくこと。それからお茶は何杯でもおかわりして良いことです。おかわりすることによって主催者に敬意を表します。そして、もう飲めない場合は遠慮せずお断りして良いそうです。

一緒に出されたお茶菓子は、紅茶には「陳皮のグミ」、八宝茶には「蓮の実の餡まんじゅう」をいただきました。どちらも横浜中華街で購入可能とのことですので、ぜひこの機会にご自宅でも中国茶を楽しんでみてはいかがでしょうか。

日本語学習者紹介（No.39）

バソーレ　マーセリンさん（ブルキナファソ）



Q.　いつ日本へ来ましたか？

A.　2020年です。ブルキナファソの首都ワガドゥグから車で 1時間くらいのキリシウというところから来ました。今は大使公邸でシェフをしています。

Q.　ブルキナファソはどんな国ですか？

A.　アフリカ西部の内陸国でコート・ジボワールやマリなどと隣り合わせです。砂漠の国というイメージがあると思いますが、それだけではありません。金鉱がありますし農業が盛んな地域が多いです。いろいろな作物がとれます。トウモロコシ、ヒエ、アワ、キビ、ピーナッツ、マメ、青菜、そしてフルーツはパイナップル、バナナ、マンゴーなどです。マンゴーはすごく甘いんですよ。以前、金鉱は外資が経営していましたが今は国内産業化が進められていますし、農業も輸出するより国内で充実させる政策になっています。数年前の革命以降、国内は落ち着いてきたと思います。

Q.　ブルキナファソでの日本の印象はどうですか？

A.　以前は旧宗主国のフランスや、カナダなどの国が良く知られていましたが、近年は日本のことが広まっています。 JICA（日本の独立行政法人「国際協力機構」）が道路や病院を作っているし、日本製品が普及しているからだと思います。JICA が建設した舗装道路はとても喜ばれているし、私が体調を崩したときに行った JICA の病院で食べた「OKAYU(お粥)」が美味しかったです。TOSHIBA、NISSAN、TOYOTA などのブランドが良く知られています。若い人たちの間ではマンガやアニメが人気です。それから、自動車のラリーでの日本チームの活躍も知られています。

Q.　日本での生活はいかがですか？

A.　私はラッキーです。シェフという仕事があるので日本での生活ができるし快適です。でも仕事がなかったり日本語が上達しないと日本で生活するのは難しいと思います。日本では音楽も楽しんでいます。小学校や大学に招待されて、ギターやジャンベという太鼓を演奏したり歌を歌ったりしています。日本の食べ物は、お寿司は生なので苦手ですがてんぷらは大丈夫だし野菜や果物もおいしいですね。なかでも私は柿が好きです。

Q.　ラウンジでの日本語クラスはどうですか？

A.　日本語ははじめ難しいと感じましたが、今は外出した時の買い物など多少のことができるようになりました。ひらがなは問題ないですが、カタカナと漢字が難しいです。日本人が速く話すとわからなくなってしまいます。雰囲気がよくてクラスになじんでいますから、クラスの時間が短く感じます。もっと長いといいと思います。ただ、英語を使える人は多いのにフランス語を話す人がほとんどいないのは不便です。風呂敷でものを包む講座など学習以外のイベントも楽しいです。

Q.　お勧めの観光スポットを教えてください。

A.　まずは、ボボ・デュラッソ（Bobo-Dioulasso）です。ブルキナファソの西部にある 2番目に大きな都市です。19世紀末に建てられたグランド・モスク（イスラム教の寺院）があります。泥で作られた白壁が四角すいの形をしていてその壁から木の棒が釘のように突き出ている面白い建物です。

首都のワガドゥグ（Ouagadougou）中心部にはワガドゥグ大聖堂があります。西アフリカ地域で最大級の教会の1つで、ブルキナファソの伝統的な赤茶色のレンガ「アドベ」が使われています。またワガドゥグでは2年ごとにアフリカ最大の映画祭の一つ「FESPACO」が開かれます。

バズーレ（Bazoulé）はワガドゥグから 30 キロほど離れた自然動物保護区です。ワニが人々を助けてくれた伝説がありワニを大切にしています。100頭以上のワニが住んでいる池では、子どもが水遊びをして大人が泳ぐみをしています。ここのワニはとてもフレンドリーなんですよ。

菊名小学校訪問

「ニホンノ コドモタチハ スバラシイ デスネ！！」興奮が冷めやらぬまま、各々の感想を語りながら坂道を下る帰り道。その日は菊名小学校を訪れた日でした。「日本にいる外国の方に自分たちは何ができるか？」そんな話し合いの中で「日本の事、自分たちの好きな事を紹介したい！」という子ども達の声が形になり、ラウンジに招待状が届きました。企画をしたのは菊名小学校5年生のあるクラス。担任の中西先生はとても熱心な方で、ラウンジから出前授業を行うなど、ここ数年交流を図っていました。

今回は、子どもを含む 17名の多文化ママカフェのメンバーが参加。日本の学校に入るのは初めての方達もいました。「New　World へようこそ！」と書かれた広い教室には、日本の食べ物の名前のクイズや折り紙で作ったコマの遊びの紹介、日本で人気のスポーツの体験など様々なブースがありました。特に学校・駅・病院で使う日本語のミニレッスンは好評で、頂いた単語集を手に、「こんな情報が欲しかった！」と大変喜んでいました。そして、小さな子ども達に対するやさしさ、発表内容やアイディアの素晴らしさに、皆さん心から感動していました。

そして給食の時間。自分たちで配膳する学校給食のスタイルに、外国の方たちはびっくり。子ども達と一緒に列に並んでトレーに食事をのせ、各班で一緒に食べることで、心の距離が更に縮まりました。

最後は子ども達が外まで出て来て、姿が見えなくなるまで手を振ってくれました。

今回参加したのは、自分の子どもがこれから小学校に通う方や、今通っている方で、日本の学校を知るいい機会になりました。母国の学校との違いに感動し、「母国にもこんな学校を作りたい！」との声も。子どもたちにとっても、色々な国の方たちとの交流は、知識に勝るいい経験になったと思います。

菊名小学校の 5年生のみなさん、担任の中西先生、素晴らしい時間を本当にありがとうございました！

伝統文化体験教室

日本の文化を体験してみませんか？

茶道

4月24日

1pm～3pm

参加費 fee

外国人　Non－Japanese 200yen

日本人　Japanese　400yen

華道

5月23日（金）

1pm～3pm

参加費 fee

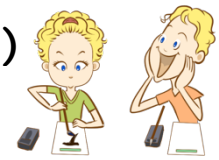
外国人　Non－Japanese 300yen

日本人　Japanese　600yen

書道

6月3日（火）

1pm～3pm



参加費 fee

外国人　Non－Japanese 100yen

日本人　Japanese 200yen

Please make a reservation at the lounge reception. Reservation can be made up one month in advance.

横浜市港北国際交流ラウンジ
KOHOKU　INTERNATIONAL　LOUNGE
〒222-0032　横浜市港北区大豆戸町316-1
Tel 045-430-5670　Fax 045-430-5671
E-mail　kohokulounge@yokohama.nifty.jp
ホームページ　https:// kohokulounge.com/

Website　Facebook　Instagram